

ミラーン堰、完工

訓練所の建設開始、酷暑去らず異常少雨

パキスタンからの帰還難民、ジャララバードに溢れる

事務局のみなさん、後藤・村上先生、

お疲れさまです。

今年も日本も異常気象で暑い日が続いていましたが、ジャララバードでも酷暑です。9月も終りなのに、夜間でも30℃を下ることがありません。曇り日さえもなく、夕立もありません。ジャララバードでは、7月から全く雨がないと聞いて驚きました。いくら乾燥地帯でも、異常です。ダラエヌール下流（ブディアライ・ソリジ村など）は、殆ど収穫ができないそうです。

「こんなときに」と言いたいのは、パキスタンからの帰還難民です。100万～150万人がペシャワールを中心に難を逃れていると言われていたのですが、このところパキスタン政府が、半ば強制的に帰還をさせています。中には、もうパキスタン人と言えるほど定着していた旧難民も含まれています。アフガン政府は、9月になって、「大量難民をひとまずナンガラハル州に留め、徐々にそれぞれの出身地に帰す」との方針を打ち出しました。

最近話題になっていたヨーロッパへの難民と異なり、全くその日暮らしの人々ばかりです。路上で物乞いする子連れの女性や、路上に力なくうずくまる老人の姿が目につくようになり、街中が混み合って、ジャララバード市全体がまるで収容所になったかのような錯覚を与えます。これに、スピングル山麓方面から戦火を逃れてくる人々、北部から干ばつに窮した流民が加わります。

現在、ミラーン堰の工事に一応の終止符を打ち、対岸地区（マルワリード II）の準備を始めています。この地域でも、昨今の洪水や干ばつで逃れていた

人々が続々と戻っています。折よくというべきか、PMSの灌漑計画が実施されるので、村民は私たちに唯一の希望をつなぎ、協力関係が打ち立てられています。10月からスタートさせ、今年も取水堰と護岸など、河川工事が中心となります。何とか、4年以内に850ヘクタールの安定灌漑を目指します。

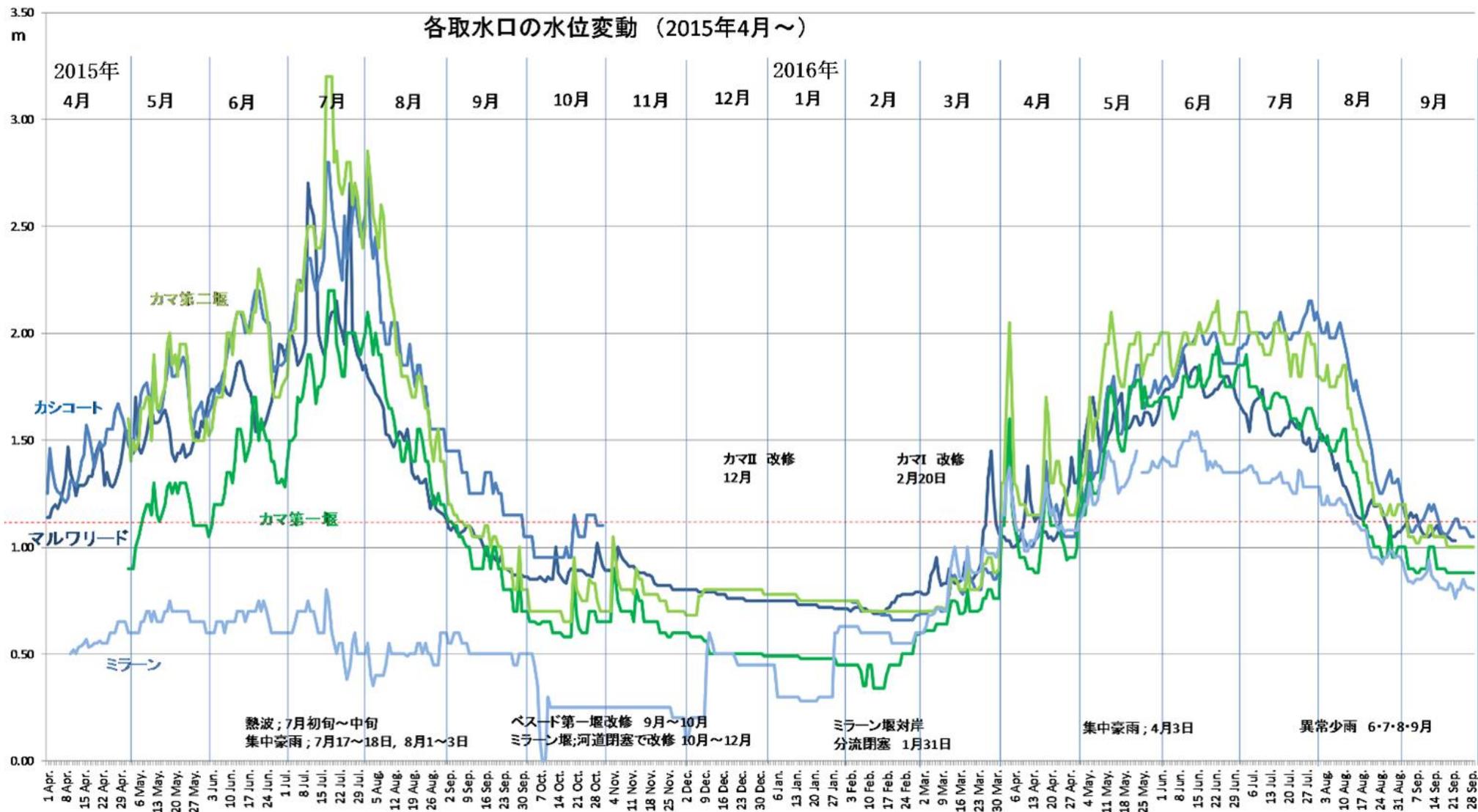
9月下旬にFAO（国連食糧農業機構）の協力で訓練所の建設が始まりました。この方は専ら「実技習得」の場で、二年以内にPMS職員の再訓練を終えた後、徐々に他地域からの受入れを考えています。これは、大袈裟な「教育機関」ではなく、要するに現場で働きながら技術を身に付ける、いわば職人の養成です。対岸の仕事は、これまでPMSが培ってきた全ての技術が投入されるので、それ自身が訓練所と言えるものです。取水堰の重要性は5分で分かりますが、作るのには5年かかります。「泳ぎ方の本を理解すれば泳げるようになる」と誤解する向きもあるので、「実践的な技術習得」を掲げ、各方面に訴えていきます。

ミラーン堰の報告は、とりあえずこれで終わりです。後半の写真に建設前の状態が示してありますので、興味ある方はご覧ください。

来週からは、対岸地域（マルワリード II）の報告が中心となります。どうぞお元気で。

2016年9月30日 記

クナール河沿いの各取水堰の水位変動。異常少雨にもかかわらず、低水位期に向かう現在、昨年よりもやや高めを維持している。最も安定しているのがミラーン堰で、同堰完成後、低水位期と高水位期の差は1mに満たない。



ミラーン堰の現在。堰体を強化して工事終了。砂州1・2の粗朶柵は良く残り、景観の上でも美しい。砂州3は、必要なら埋設籠を増やして対処する。今年度中に対岸の交通路がベラ村まで通るので、維持は更に容易となる。この2年の激闘を思い、感無量。2016年9月28日



取水門と砂吐き I。冬季の渇水、夏の洪水と河岸侵食は、しばらく考えられない。2016年9月26日



水門を下流側から見る。水量は豊富かつ安定。ミラーン流域とタブー流域の和解の基礎。2016年9月26日



主幹水路と橋。ヤナギは挿し木後一年半。2016年9月26日



沈砂池と東西の送水門。2016年9月25日



沈砂池からの排水門。2016年9月27日



排水路。巨礫を根固めにして柳枝工と組み合わせたもの。ヤナギは一年半だが、水路沿いよりも成長が旺盛。シーシャムの木が多数混じっている。シーシャムは自然発芽したものを保護したのみ。2016年9月27日



排水路末端の架橋（カマ側からの交通路。将来、各堰に向かう拠点として重きをなす。2016年9月27日



侵食防止に施された護岸。ミラーン側の護岸は計 2,800m、12~50m間隔に石出し水制を置く、記録的なものとなった。ミラーン堰の建設意義の一つが、クナール河における護岸法の会得だった。やぼったいが機能は十分。2016年9月26日



秋来たり、河の寒風まだ遠し。下り始めてきた遊牧民たち。草地を求めてきたが、こんなに酷暑だとは思わなかった。2016年9月29日



訓練所の建設。シルト層を約 1.5mほど除くと、強靱な砂利層が現れる。今秋は河川工事に忙殺されるので、基礎だけきちんとして、上部は来年から本格化される。いずれ「緑の大地計画」の基地として大きな働きをする。2016年9月29日

